磯子区少年野球連盟(学童部)大会規定

2023(R5)年 2 月 5 日改定

大会の競技運営は、最新の公認野球規則、全日本軟式野球連盟競技者必携ならびに本大会規定による。

- 1. 目的** 友好と連帯をはかり、正しい少年野球の普及と協調の精神を養い、区学童少年を善導し、健全育成をはかる。当連盟主催の大会を対象とする。
- 2. 日程** 開会式以後、抽選組合せに従って指定球場において、原則日曜日、祝日に試合を実施する。但し、雨天、グラウンドコンディションまたは、学校行事等で延期の場合は、次の予定日に振り替える。開催期日については、別紙大会日程表にもとづく。
- 3. 球場** 洋光台南公園少年野球場(洋光台球場)、岡村公園少年多目的広場(岡村球場)を併用する。
- 4. 使用球** 公認健康ボールJ号、試合球は連盟が提供する。
- 5. 試合開始**

	[3試合の場合]	[4試合の場合]
予定時刻	第1試合 9:00～ 第2試合 10:40～ 第3試合 12:20～	第1試合 9:00～ 第2試合 10:40～ 第3試合 12:20～ 第4試合 14:00～
- 6. 集合時間** 各チームは、試合開始予定時刻**40**分前迄に指定球場に集合し、監督は球場本部にその旨を報告すること。
試合開始予定時刻**40**分前または前の試合の4回終了後に両軍の監督および主将は、打順表三部を球場本部に提出し、主将によって攻守を決める。
試合開始予定時刻**40**分前迄に、球場本部に連絡が無く球場に到着しない場合は、棄権と見なし、対戦相手に不戦勝を宣告する。
* 打順表には、控え選手もフルネームで、先発メンバーは、フリガナを明記する。代理監督の場合は、打順表の監督欄に明記し球場本部に申し出ること。
- 7. ベンチ**
サイド 組合せ抽選番号の若いチームが、一塁側とする。試合を終了した両チームの選手は、相手ベンチへの挨拶は行わず、速やかにベンチを空ける。
- 8. 審判員** 球審、塁審は連盟審判員が行う
・チームは、予定試合の前後審として、指定された試合に当該チームの公認審判員 1 名を派遣する。

9. 試合の方法

参加チームが 20 チーム以上の場合に敗者復活戦を実施する。
参加チームが 20 チームに満たない場合は、監督会議時の抽選結果によるトーナメントを実施する。

[抽選: 第一回・第二回・第三回戦][参加チームが 20 チーム以上の場合]

抽選組合せに従って試合を実施する。

第一回戦の敗者および第一回戦・敗者復活戦・第二回戦の勝者は試合終了後に球場本部にて主将が次回戦の抽選を行う。

[時間: 第一回・第二回・第三回戦・敗者復活戦・準決勝戦・三位決定戦]

6イニング制, 制限時間90分制を採用。ただし80分を超過した場合は新たなイニングには入らない。6イニング完了または制限時間を超過し決着が着かない場合は、タイブレーク方式を実施する。

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁の走者とする。すなわち、無死一・二塁の状態にして試合再開し勝敗を決める。投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決するまでタイブレーク方式を続行する。~~ただし、制限時間超過後のタイブレーク方式は2イニングを最大とし、勝敗がつかない場合は抽選とする。~~なお、通常の延長戦と同様に規則によって認められる選手の交代は許される。

[時間: 決勝戦]

6イニング制, 制限時間90分制を採用。6イニング完了または制限時間を超過し決着が着かない場合は、タイブレーク方式を実施する。

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁の走者とする。すなわち、無死一・二塁の状態にして試合再開し勝敗を決める。投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決するまでタイブレーク方式を続行する。なお、通常の延長戦と同様に規則によって認められる選手の交代は許される。

10. コールドゲーム

- ① 3回以降10点差、5回以降7点差の時は、コールドゲームを宣言する。試合途中で降雨または、日没等で試合続行不能となった場合、5回をもって試合成立とする。その他の場合は、特別継続試合とする。
- ② 3回までに15点差または1イニングの攻撃が30分継続の場合はコールドゲーム成立。ただし両チーム監督同意のもと敗者チームの打者9人のうち一度も打席に立っていない打者には、1打席を与えるが得点には反映させない。
- ③ 決勝戦には得点差によるコールドゲームを採用しない。

11. グラウンド 「洋光台球場」
ドールール
- ① 本塁打:打球がダイレクトに外野金網を越えるか、直接金網に当たった場合(金網の穴から出た場合も同様)
 - ② ボールデッド箇所:一塁コーチスボックス横の砂置き場

「岡村球場」

- ① 本塁打:打球がレフト・センター後方の外野フェンスを越えるか、直接金網に当たった場合(金網の穴から出た場合も同様)または、ライト後方の土手下部フェンスを越えた場合。
- ② 三塁打:打球が左中間後方のネットの下及び穴から飛び出した場合
- ③ ボールデッド箇所:ライトファウルエリア土手

[両球場共通]

ボールデッド箇所:両軍のベンチ内(ボールの跳ね返りを含む)

12. 連盟取り
決め事項
- ① 開会式には、大会参加の主旨から登録選手全員が参加することが原則であるが最低でも9名以上参加すること。これに反した場合は、大会出場権を剥奪する事がある。登録選手以外の部員が参加する場合は、必ずユニフォーム着用のこと。
 - ② 大会中の選手および指導者の負傷については、そのチームの責任において適切な処置をとること。(チームは、必ずスポーツ障害保険に加入すること)
 - ③ 試合前の練習は、グラウンド整備中に外野で行うこと。
なお、練習時間として、前の試合終了後 10 分間をみとめる。
 - ④ 試合中の投球練習は、自軍側外野ファウルエリアにて一組のみ認める。
 - ⑤ 次の試合のバッテリーは、4回終了後または試合終了予定時刻の40分前から、自軍側外野ファウルエリアにて一組のみ投球練習を認める。ただし、球場本部の許可を得ること。また、試合中選手の練習を優先すること。
 - ⑥ 用具、装具等については、全日本軟式野球連盟規定細則の第12条による。特に用具については、J.S.B.B マーク付き等軟連公認のものを使用すること。
 - ⑦ 捕手のマスクは、スロートガード付きの物を使用すること。(スロートガード一体型のマスクは可)
 - ⑧ 捕手は、守備中ファウルカップを装着すること。
 - ⑨ ボールボーイおよびバットボーイならびにシートノック時の捕手および補助員はヘルメットを着用すること。
 - ⑩ 投手の投球制限; 1日70球以内とする。(四年生以下は60球以下)
 - ・試合中規定投球数に達した場合、その打者の打撃中に攻守交代となるか、打撃を完了するまで投球できる。
 - ・ボークにもかかわらず投球したものは、投球数に数える。
 - ・タイブレークになった場合、1日の規定投球数以内で投球できる。
 - ・けん制球や送球とみなされるものは投球数としない。

・投球数の管理は、大会本部が行う。そのため、チームは予定試合の前後記録員として、指定された試合に、当該チームの記録員1名を派遣し、投手の球数カウントを担当する。

- ⑪ ベンチ内での携帯電話、携帯マイクの使用を禁止する。また、メガホンは監督に限り使用を認める。
- ⑫ ファウルボールの処理
一塁側は、一塁側チームが拾い、三塁側は三塁側チームが拾う。
捕手後方及び、バックネット越えの場合は、攻撃側チームが拾う。
- ⑬ 学校行事(クラス単位を除く)や、当連盟が承諾する上部大会に出場するため試合スケジュールの一部を変更することがある。他の理由等での連盟スケジュール変更は認められない。磯子区大会に優先的に参加することを義務付ける。なお、監督会議を欠席した場合および磯子区大会を棄権した場合には、該当チームの監督を2年間の登録禁止とする。
- ⑭ 上部大会に参加するチームは、区の代表として、その大会規定を順守する。
- ⑮ 合同チーム結成の要件は、合併を前提とする場合およびチームの選手数が9名未満の場合とする。

13. 試合中ベンチ入り出来る人員

- ① ベンチ入り出来るのは、代表者1名、連絡者1名、監督1名、コーチ2名、スコアラー1名の計6名および登録選手25名以内とする。なお、指導者等が試合中に再入場を前提にグラウンド外に出る場合は、球場本部の許可を得ること。
- ② ユニフォーム着用者の背番号は監督(30番)コーチ(28, 29番)選手(0~99番)とし、ユニフォームは同意匠とする。(スパイクの色は自由とし、全員同色でなくても構わない)
それ以外の代表者、連絡者、スコアラーは、ジャージなどの運動のできる服装とし、チーム帽を着用すること。(ユニフォームの着用は認めない)

14. 連絡

- ① 学校行事や、連盟承諾の上部大会でやむを得ずスケジュールの変更が生じた時は、速やかに下記に連絡願います。
各チーム ⇒ 事務局(久我) ⇔ 連盟役員
⇒ 事務局(久我) ⇒ 各チーム
 - ② 当日の試合に関する緊急連絡
岡村球場(福田) ⇔ 連盟役員 ⇒ 事務局(久我) ⇒ 関係チーム
洋光台球場(久我) ⇔ 連盟役員 ⇒ 事務局(久我) ⇒ 関係チーム
- * 地区理事の氏名、連絡先は連盟役員名簿参照のこと